



三宮 十五郎 議員

## 予算と決算額の誤差を改善すべきではないか

問

税収を始めとする市の収支が年を追うごとに実態からかけ離れ、市の行政力・財政力が議会や市民だけでなく、職員にも分かりづらくなっている。

税収の予算案と決算額の差は、14年、15年当時は1%未満だったが、18年度は9.5%になり差が大きくなり始めている。

県は新年度の予算を立てる時点で、前年度の収支とほぼ決算と同じものが議会に示されている。県のようにするにはかなり訓練もいるし、時間もかかると思うが、それが基本という立場で予算を編成して、市民や市の幹部、職員そして議決機関である議会にも分かるようにすべきである。

可能な限り3月議会で当

初予算に市の一致した方針として、年度の収入全体を示し、今の状態を改善してもらいたい、いかがか。

## 今後は精査していききたい

答 市長

18年度予算において、合併以降で歳入計画について精査に欠けたと思う。

今後は、歳入は過去の実績や前年度決算を十分検討し、歳出も過大な見積りとならないよう精査していききたい。

## 予算の実態を無視した行革は改善を

問

17年度の行革時、区長報酬等の削減を行ったが、予算は5億円増え結果的には約3億円の積立金等が増えた。そういう予算の実態を無視してやったことは、一日も早く改善すべきではないか。

## 公共施設の使用料等を早期に見直したい

答 市長

旧弥富町時代、14年度からの単年度決算3年連続赤字から、行革により赤字になったことは評価すべきと思う。

現在も扶助費や公債費等の義務的経費が増加傾向にあり、財政状態は決して樂觀を許さない状況にある。行革について今後も進めなければならぬと強く認識している。ただし、住民サービスの的一环として、公共施設の使用料金等を早い時期に見直したいという考え方を持っている。

## 予算書等に根拠を記載すべきではないか

問

市の予算書、決算書は根拠の記載がなく、分かりにくい。県や尾張他市を参考にすべきではないか。

## 今後は検討して改善していききたい

答 市長

今後は検討して改善していききたい。

問

蟹江町は13年度から5年間で、ほとんど一般財源を使わずに補助金と起債で町内施設の耐震事業を行ったが、市でもよく研究してはどうか。

答 市長

小・中学校や保育所が最優先課題である。市庁舎については非常に危険視されており、よく検討しなければならぬと思う。